

# 第74回 医学教育セミナーとワークショップ in 国際医療福祉大学

2019年10月12日(土)PM ~ 13日(日)AM  
国際医療福祉大学(成田キャンパス)

セミナー 著作権法改正に伴い著作物を利用する教材作成はどう変わるか

ML 講師：吉田素文（国際医療福祉大学）

国際医療福祉大学アクティブラーニングの取り組み

講師：赤津晴子（国際医療福祉大学）

施設紹介 新しいシミュレーション教育研修施設SCOPEのコンセプトと見学ツアー

ML 企画：石川和信・小林 元・仲 俊行（国際医療福祉大学）

WS-1 多職種連携に必要な多様な視座・視野・視点を醸成するための教育には、  
CD 何をどのように準備するべきだろうか？

企画：春田淳志・木村周平・照山絢子・後藤亮平・涌水理恵（筑波大学）、林 幹雄（東京大学）

WS-2 低学年における医療プロフェッショナル教育 どう工夫する？

TL

～ゲーミングをとりいれて～

企画：荻野美恵子・清水伸幸（国際医療福祉大学）、西垣悦代（関西医科大学）他

WS-3 臨地実習における教育上の調整が必要な医療系学生への支援を考える

ML

企画：吉本照子（千葉大学）、飯岡由紀子（埼玉県立大学）、遠藤和子（山形県立保健医療大学）、  
小川純子（淑徳大学）、松岡千代（佛教大学）

WS-4 タスクシフティングが進む中で医師・多職種と診療看護師(NP)の

ML

協働の仕方を考える

企画：黒澤昌洋・阿部恵子・山中 真・泉 雅之（愛知医科大学）、栗田康生・五十嵐真里（国際医療福祉大学）、  
森 一直（愛知医科大学病院）

WS-5 外国人患者とも「やさしい日本語」でコミュニケーション

TL

企画：武田裕子・稲葉加奈子・Shishu Sun・葛玉栄（順天堂大学）、矢野晴美・稲田朋晃・品川なぎさ・山元一晃・  
加藤林太郎・石川和信（国際医療福祉大学）、岩田一成（聖心女子大学）

WS-6 英語でのOSCEの指導方法と評価方法を考えよう！

A

企画：押味貴之・Tamerlan Babayev・Cosmin Mihail Florescu・Barnabas Jon Martin・Shawn De Haven  
（国際医療福祉大学）他

WS-7 エビデンスに基づく臨床コミュニケーション教育基礎編 ～何を教えればいいのか？～

TL

企画：菊川 誠・金澤剛志（九州大学）、橋本忠幸（橋本市市民病院）、三島千明（青葉アーバンクリニック）、  
岡村知直（飯塚病院）、小杉俊介（麻生飯塚病院）

WS-8 学んで楽しい！教えて楽しい！身体診察 -5つの教育実践例

TL

企画：朝比奈真由美・伊藤彰一・鋪野紀好・神田真人・塚本知子・横尾英孝・笠井 大（千葉大学）

WS-9 Programmatic assessmentの日本への導入について

A

企画：矢野晴美・Dariimaa Ganbat・Duong Uyen Binh Pharm（国際医療福祉大学）、松山 泰（自治医科大学）

10月12日(土)						
13:00-16:30	WS-1～	WS-2～	WS-3～	WS-4	WS-5	WS-6
16:45-17:45	セミナー					
17:45-18:45	施設紹介					
19:00-20:30	懇親会					
10月13日(日)						
9:00-12:30	～WS-1	～WS-2	～WS-3	WS-7	WS-8	WS-9

\*記号（ TL 等）は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は、MEDCホームページをご覧ください。

第75回  
岐阜

2020/1/25-26

第76回  
岐阜

第21回教務事務職員研修

2020/5/22-24

第77回  
関西医大

2020/10/3-4

第78回  
岐阜

2021/1/22-23

医学教育共同利用拠点  
岐阜大学医学教育開発研究センター

TEL : 058-230-6470 FAX : 058-230-6468  
〒501-1194 岐阜市柳町1番1  
E-mail : medc@gifu-u.ac.jp

MEDC

検索

## セミナー 著作権法改正に伴い著作物を利用する教材作成はどう変わるか

ML

講師： 吉田素文（国際医療福祉大学）

日時： 10月12日（土）16:45～17:15

概要： 従来、効果的な授業を行うため、著作物を含む教材をeラーニング等授業外で配布する場合、著作権法第35条（学校その他の教育機関における複製等）は適用できず、同法第32条（引用）を適用する必要がありましたが、各大学で教育現場における理解は十分だったでしょうか。一方、平成30年5月にICT活用教育を推進するための著作権法第35条の法改正が成立し、3年以内に施行されることになりました。この結果、教材における著作物の利用環境整備は、飛躍的な前進が期待される一方、大学設置者は権利者団体に対する補償金の支払いが生じるほか、教育現場での著作権法の普及・啓発が必須とされています。現在、権利者と教育関係者団体によるガイドライン策定が始まったところです。今回の法改正により、特に医療系の大学において著作物を含む教材の作成と利用がどのように変わり、どのような制度的な整備が必要とされるのかについて検討します。

### 国際医療福祉大学アクティブラーニングの取り組み

講師： 赤津晴子（国際医療福祉大学）

日時： 10月12日（土）17:15～17:45

概要： 医学教育は生涯教育を前提としており、医学部教員は教え子が卒後何十年にも渡り生涯教育を行えるかどうかまで教育責任があると考えます。生涯にわたり自己研鑽を怠らない医師を養成するには学部教育はどうあるべきか。アクティブラーニングとは教育上のテクニックにとどまらず、生涯教育につながる学部教育の一つの有効なプラットフォームであり、国際医療福祉大学におけるその取り組みをご紹介します。

## 施設紹介 新しいシミュレーション教育研修施設SCOPEのコンセプトと見学ツアー

ML

企画： 石川和信・小林 元・仲 俊行（国際医療福祉大学）

日時： 10月12日（土）17:45～18:45

概要： 成田シミュレーションセンターは、SCOPE（Simulation Center for Outstanding Professional Education）と命名され、卒前、卒後、生涯教育の全てのステージにわたる学習・研修ニーズへの対応を意図しています。施設面積は5,338平米に及び、全国医学部シミュレーション施設の平均面積339平米をはるかに凌駕するこれまでにない本格的な機能を備えた世界最大級のシミュレーション教育施設です。急患室（ER）、手術室（OR）、集中治療室（ICU）、模擬病棟など、臨床現場に即した実践的なシミュレーショントレーニングが可能です。また、医学部150名が同時に救命救急（BLS）トレーニングも可能で、外来診療セッティングの模擬診察室22室、フィジカルアセスメント室、超音波・内視鏡室もあり、臨床教育のためフル装備となっています。医学部1年次から積極的にシミュレーション教育を導入することによって、早期から医療安全や患者中心の医療の意識を植え付ける教育を開始しており、入学時BLSトレーニング、薬理学における高機能患者シミュレータを用いた薬物投与とバイタルサインの学習、解剖生理学における婦人科モデル・高機能分娩シミュレータを用いた学習、模擬患者との医療面接、循環器、呼吸器、消化器などの器官別授業（フィジカルアセスメント・聴診シミュレータ・超音波を用いた学習）を低学年で体験学習しています。大人数の医学生を対象とした臨床技能教育には、十分なスペースと機能を備えたシミュレーション施設の設置や担当教員の確保など多くの調整を要していますが、本邦で初めて本格的な臨床シミュレーション教育を医学生の時期から学べるようになったことを確認していただく機会にしていただければと思います。

## WS-1 多職種連携に必要な多様な視座・視野・視点を醸成するための教育には、何をどのように準備すべきだろうか？

CD

企画： 春田淳志・木村周平・照山絢子・後藤亮平・涌水理恵（筑波大学）、林 幹雄（東京大学）

日時： 10月12日（土）13:00～16:30・13日（日）9:00～12:30（7時間）

概要： 教育や臨床現場で働き続ける教員や保健医療福祉の専門家は、意識・無意識に限らず思考が固定化される。その弊害を打破するには、移行行く社会構造や言動にある関係性、そこに潜む権力、あるいは医療現場における自身や多職種・患者間の相互行為を理解するなど、社会的想像力を醸成することが求められる。また昨今の複雑な問題を整理するためにも、大学の教員や保健医療福祉専門職は既存の思考とは異なった枠組みで現場の事象を理解することが求められる。そこでこのワークショップは、人類学者を含む多職種で、日常にある医療現場を多面的に理解できるようになることを目的として、様々なワークを実施する。〈人間〉と〈社会〉との間、〈ライフヒストリー〉と〈歴史〉との間、〈自己〉と〈世界〉との間の相互浸透を理解するために必要な多様な視座・視野・視点を醸成するための教育には、何をどのように準備すべきか、参加者全員でこの疑問に取り組む。

対象： 全ての大学の教員や保健医療福祉専門職

定員：20名

## WS-2 低学年における医療プロフェッショナリズム教育 どう工夫する？ ～ゲーミングをとりいれて～

TL

企画： 荻野美恵子・清水伸幸（国際医療福祉大学）、西垣悦代（関西医科大学）他

日時： 10月12日（土）13:00～16:30・13日（日）9:00～12:30（7時間）

概要： 医療プロフェッショナリズム教育をどのように行えばよいかについては議論があるところである。特に臨床現場をあまり知らない低学年の学生に対する教育には工夫が必要である。本ワークショップを通して、参加者の経験を踏まえ、実際に授業計画をたて、模擬授業を行うことで、すぐにも実行可能なプログラム作成を体験する。また、国際医療福祉大学で実際にこの2年行ってきた授業の一部を模擬体験していただき、ご批判いただいた上で、それらの過程で得られた知見を全員で共有することでさらに質の高い授業計画に寄与することが狙いである。われわれはteam based teaching：TBTを経験し、その有効性について報告したが、本ワークショップの全過程を通して、実際に経験することで、その有用性をも体験する場としたい。また、今後このような教育セミナーを活用して現場に直結させるにはどうすれば良いかについてもディスカッションしたい。

対象： 医療プロフェッショナリズム教育に携わっている、もしくは関心のある教員・職員・学生

定員：30名

## WS-3 臨地実習における教育上の調整が必要な医療系学生への支援を考える

ML

企画：吉本照子（千葉大学）、飯岡由紀子（埼玉県立大学）、遠藤和子（山形県立保健医療大学）、小川純子（淑徳大学）、松岡千代（佛教大学）

日時：10月12日(土)13:00～16:30・13日(日)9:00～12:30（7時間）

概要：医療系大学には、障がいや有する等の学生の状況に応じた「教育上の合理的配慮あるいは調整（教育上の調整）」のもとに学生に学修機会を保障し、多様な能力の発揮を支援することが求められています。看護学教育における臨地実習では、実習施設のケア対象者・家族、看護職者および学生全員の安全・安心を確保し、実習施設の看護の質、他の学生の教育の質保証等も考慮して教育上の調整を行う必要があります。こうした教育上の調整に困難を感じる看護系教員・看護職者も多い状況に対し、企画者らは看護系教員および看護職者を対象としたFD・SDプログラムを開発しました。今回、第一部（10/12）では、企画者らが開発したFD・SDプログラムを紹介し、対人関係が難しい学生等の事例に関するグループワークなどを体験していただきます。第二部（10/13）では、教育上の調整の基盤となるテクニカルスタンダードや学生・医療系教職員への組織的支援のあり方について、招聘シンポジストとともに考えたいと思います。このワークショップは看護学教育での実践を紹介させていただきますが、どの医療系養成教職員の皆さまにもご参加いただけます。

対象：本テーマに関心のある医療系教職員

定員：45名

## WS-4 タスクシフティングが進む中で医師・多職種と診療看護師(NP)の協働の仕方を考える

ML

企画：黒澤昌洋・阿部恵子・山中 真・泉 雅之（愛知医科大学）、栗田康生・五十嵐真里（国際医療福祉大学）、森 一直（愛知医科大学病院）

日時：10月12日(土)13:00～16:30（3時間半）

概要：わが国の医療は、超高齢社会と医療の高度化を背景として急速にタスクシフティングが進んでいます。これは、これまでの医療の形を大きく変える転換期であり、多職種連携の在り方も変わっていくことが予測されます。看護界においても、諸外国で活躍している、診断能力を持ち、健康増進と治療を様々な人々に提供するナース・プラクティショナーを目指して、2008年から診療看護師（NP）の養成が開始されています。診療看護師は、看護学を基盤としつつ、臨床推論と特定行為を含む治療管理が実践できる能力を身につけ、急性期医療から在宅医療まで多岐に渡り活動を行なっています。しかし、医師や多職種との協働の在り方を模索しているのが現状です。ワークショップでは、診療看護師の制度や活動を紹介しながら、シミュレーションとグループワークを通して、診療看護師との協働の仕方についてディスカッションしたいと考えています。

対象：診療看護師（NP）に関心がある医師・看護師、他職種、教育関係者

定員：45名

## WS-5 外国人患者とも「やさしい日本語」でコミュニケーション

TL

企画：武田裕子・稲葉加奈子・Shishu Sun・葛玉栄（順天堂大学）、矢野晴美・稲田朋晃・品川なぎさ・山元一晃・加藤林太郎・石川和信（国際医療福祉大学）、岩田一成（聖心女子大学）

日時：10月12日(土)13:00～16:30（3時間半）

概要：カタコトの日本語の外国人患者さんにもご理解頂けるコミュニケーション・スキルと態度教育がテーマです。「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災の際に日本語を母語としない方々に情報が届かず、負傷者の割合が日本人よりも多かったことから、減災・防災の手段として提案されました。これまでに行政窓口や生活情報提供、訪日ツーリズムの場で効果を発揮しています。しかし、医療関係者にはほとんど知られていません。日本に住む在留外国人のうち、英語でコミュニケーションをとっている人は20%くらいですが、「やさしい日本語」なら理解できる人は6割を超えます。言葉の壁は医療機関へのアクセスを困難にし、健康格差の原因となっています。「やさしい日本語」は、高齢者や障がいを抱える方との会話にも役立つ。医療系学生のコミュニケーション力向上と共に、社会で困窮している方々への理解を深めるきっかけにもなります。いっしょに学んでみませんか！

対象：医療系学部学生・教員、外国人診療に関わる可能性のある方、

コミュニケーション教育・模擬患者養成を行われている方、模擬患者ボランティアの方

定員：30名

## WS-6 英語でのOSCEの指導方法と評価方法を考えよう！

A

企画：押味貴之・Tamerlan Babayev・Cosmin Mihail Florescu・Barnabas Jon Martin・Shawn De Haven（国際医療福祉大学）他

日時：10月12日(土)13:00～16:30（3時間半）

概要：国際化が進む中、OSCEを英語でも実施しようという大学が増えています。海外臨床実習でも役に立つ技術を身につけようとするならば、日本語のOSCEをそのまま英語にしたものでは学修効果は高くありません。

このワークショップでは日本の医学部で目指すべき「英語でのOSCE」のあり方を指導方法と評価方法の2つの視点から考えます。

最初に「海外臨床実習で求められる英語での臨床能力」を確認した後、英語模擬患者を使用した医学生の実験面接と身体診察をシミュレーションセンターで見学します。そこから「日本の医学部で達成可能な英語での臨床能力」を考えた後、昼食を挟んで「英語でのOSCEの指導方法」を「何を」「誰が」「どのように」行うかをKJ法で議論します。最後にそれまでの議論を元に日本の医学部の実情に沿った現実的な「英語でのOSCEの評価方法」を全員で作ります。

医学部留学生も参加する楽しいワークショップですので、お気軽にご参加ください。

対象：英語でのOSCEを予定している、もしくは関心のある教員・職員・学生

定員：30名

## WS-7 エビデンスに基づく臨床コミュニケーション教育基礎編 ～何を教えればいいのか？～

TL

企画：菊川 誠・金澤剛志（九州大学）、橋本忠幸（橋本市市民病院）、三島千明（青葉アーバンクリニック）、岡村真直（飯塚病院）、小杉俊介（麻生飯塚病院）

日時：10月13日(日)9:00～12:30（3時間半）

概要：日本の卒前医学教育において、模擬面接を始めとしたコミュニケーション教育が定着してから久しい。

これについては各所で改善の努力が見られ、Breaking Bad News等のより高度な面接的教育も一部では始まっている。

一方で、卒後のコミュニケーション教育については各臨床研修病院に任せられているのが現状であり、一部の先進的なコミュニケーション教育を行っている施設以外では、多くの指導医たちは自らの経験を頼りにコミュニケーションの教育を行っているものと推察される。

ヨーロッパ各国では全ての臨床教育に携わる医師職が、コミュニケーション教育の方略について学ぶ事が一般的に行われており、各医療系養成機関や団体（ワークショップ）を開催している。これらのユースで紹介されているEvidenceに基づいた臨床コミュニケーションの教育法について、日本の伝統文化を考慮し臨床現場で応用できる形にしたものを、workshopを通じて紹介する。

なお医師の卒後研修の場面を想定していますが、卒前や他の職種（臨床コミュニケーション教育）にも応用が効く内容となっております。参加者の方一人ひとりの環境に合わせたアレンジいたします。

対象：コミュニケーションを指導する立場にある医師・医療専門職・医療系教員

定員：30名

企画：朝比奈真由美・伊藤彰一・鋪野紀好・神田真人・塚本知子・横尾英孝・笠井 大（千葉大学）

日時：10月13日(日)9:00～12:30（3時間半）

概要：身体診察は疾患の診断、日々の状態の評価などに有用ですが、十分なスキルを修得するのは困難であり、学習者に効果的に指導するための教育スキルが求められます。

今回のワークショップでは、身体診察スキルを集中的かつ体系的に研鑽するための教育モデルを習得することを目的とします。ベッドサイドティーチングでの多くの経験に基づいた教育手法のTipsに留まらず、反転授業、ピア・ティーチング、テクノロジーの活用など、アクティブ・ラーニングを実践するための取組を学びます。また、身体診察を通じた患者とのコミュニケーションスキルを高める方法についても学習します。さらに、臨床実習後OSCEでも評価項目として掲げられている「診断仮説に基づく身体診察」の教育方法についても取り上げ、効果的な教育手法について検討します。どの診療科の臨床実習指導においても応用可能な、身体診察の教育法を皆で楽しく学びあひましょ。

対象：卒前・卒後の身体診察の教育方法に関心のあるすべての関係者（医師、看護師、薬剤師など）、アクティブ・ラーニングを学びたい方

定員：50名

## WS-9 Programmatic assessmentの日本への導入について

A

企画：矢野晴美・Dariimaa Ganbat・Duong Uyen Binh Pharm（国際医療福祉大学）、松山 泰（自治医科大学）

日時：10月13日(日)9:00～12:30（3時間半）

概要：本ワークショップでは、アウトカム基盤型教育におけるアセスメントについて、Programmatic assessment（体系性をもったアセスメントプログラム）の概念の導入と共有を主体とし、日本で実践するにはどのような課題があるかを参加者で議論する。自施設でのアセスメントの課題の明確化、改善に向けたアクションプランなどを作成し、実践できることを目標とする。ワークショップは日本語および英語に対応できるようにする。

対象：医学教育を実践している教員、学修者評価（アセスメント）に興味のある方等

定員：30名

## 参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。  
「MEDC」で簡単検索できます。

**締め切り：2019年 9月 29日(日)**

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。  
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。  
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費： 2,000円 学部学生無料

懇親会費：5,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。

参加費は、当日資料ならびに第74回医学教育セミナーとワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。（学部学生への送付はありません）

会場：国際医療福祉大学（成田キャンパス）医学部棟

（〒286-8686 千葉県成田市公津の杜4-3）

